

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Drawing		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 15日		～ 令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	知識、経験が豊富な専門職による支援が行なわれている。	ABAセラピストや作業療法士により、利用者さんの日々のアセスメントをしっかりと行いながら、モニタリング内容に反映し計画の立案をしています。また、代替コミュニケーションの取り組みも希望される利用者の方に実施しています。	今後も、専門性の高い支援が行なえるようスタッフ全員が勉強会の参加や資格取得等のスキルアップに努めるとともに、保護者の協力の元、自立を目指す利用者の方に正しい代替コミュニケーションの方法を広げていきたいと考えています。
2	自立支援や日常生活の充実を図る活動が充実している。	公共施設の利用や、公園での活動、買い物活動を日常的に取り入れたり、長期休みには市外に出て新しい場所に出る経験を積み、家族と出かけられる場所の幅が広がるようにしています。	日常の活動だけでなく、長期休暇時の外出先も特性や興味関心、年齢に合わせたものが提供できるようにしていきます。
3	多機能型であることで就学への接続や、課題・対応などを、学校・事業所・家庭・地域と共有しやすい。	今年度から保育所等訪問支援事業が開始されたことにより、支援員が直接観察した内容が支援に活かせるようになりました。	知識と経験のある専門員を増員予定。不登校児も対象に支援を行なっていきます。また、児童発達支援から放デイの利用に切り替えて継続利用される方もいるので、環境の変化に少しでも早く順応できるよう支援していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物のバリアフリー化や、個別の部屋を利用できる環境が整っていない。	建物の構造的にバリアフリー化をしたり、新たに個室を設けるスペースがない。	現在使用用途が限られている面談室を、個別利用しやすい環境に整え、希望に応じて利用ができるようにする。バリアフリー化に関しては、現在の利用者の方には影響がない状況のため、今後移転の機会があった際には最大限考慮する。
2	地域との連携・交流の取り組みが少ない。	コロナ禍をきっかけに少ずつ他事業所との交流などを行う機会が減ってしまった。	まっとながら祭や、地域のこどもクリニックでの活動を継続していく。また、利用者の方々が将来利用する可能性のある就労支援施設などとの交流を計画していく。
3	保護者同士の交流や、きょうだい向けの支援の機会が少ない。	保護者が個別に希望日に日常の支援の様子を見学する機会は増やしたが、保護者同士が集まる機会を企画できていない。	今後は、家族に参加できるイベントを企画したり、Drawingの強みを活かした家族向けの研修を開催して行く予定。